

MR10-02 「みらい」 クルーズサマリー

1) 船舶名

みらい

2) 航海番号

MR10-02

3) 航海名称

熱帯域における大気・海洋観測研究

4) 首席研究者

安藤健太郎

インド洋・太平洋海洋気候変動研究チーム・チームリーダー

地球環境変動領域

独立行政法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)

5) Representatives of science party and thema

インド洋・太平洋海洋気候研究

安藤健太郎 (海洋研究開発機構)

トライトンブイの運用

石原靖久 (海洋研究開発機構)

エアロゾル・雲の光学特性と鉛直分布の観測

杉本伸夫 (国立環境研究所)

海洋上における水安定同位体分布図作成のための降水・水蒸気・海水採取

栗田直幸 (海洋研究開発機構)

船舶用スカイラジオメータ観測から得られる海洋上のエアロゾルの光学特性

青木一真 (富山大学)

海洋上での雲のグローバル分布と構造の研究

鷹野敏明 (千葉大学)

海面乱流フラックスの連続測定

塚本修 (岡山大学)

黒潮・親潮続流域における大気海洋相互作用観測研究

川合義美 (海洋研究開発機構)

アルゴフロートを用いた海洋循環、熱・淡水輸送とそれらの変動の研究および

西部北太平洋における物理・化学・生物過程の実験的総合研究

須賀利雄 (海洋研究開発機構)

海洋地球物理観測データの標準化及び海洋底ダイナミクスへの応用に関する研究

松本剛 (琉球大学)

6) 期間

2010年4月6日から5月3日

7) 出港、寄港地等

関根浜港：4月6日出港

八戸港：4月7日寄港

コロール港（パラオ）：4月17日寄港

グアム港（米国）：5月3日（航海終了）

8) 観測海域

西部熱帯太平洋

9) 観測内容

トライトンブイの設置と回収：6カ所

JKEO と KEO：J-KEO の目視点検と KEO の修理

CTD (Conductivity, Temperature and Depth) 採水：11キャスト

XCTD：81キャスト

ゾンデ：22放球

船舶 ADCP 観測：連続

海上気象観測：連続

大気ライダー、レーダー、降雨サンプル等大気観測：連続

地球物理（海底）観測：連続

トライトンブイの設置回収作業として、今航海では東経 130 度および東経 137/138 度のトライトンブイの設置回収を大きなトラブルなく終了する事ができた。漁船等による悪戯被害を防止するための「鉄仮面」型タワーを北緯 8 度東経 130 度のブイで利用していたが、タワー自体は壊れておらず、通常タワーより悪戯防止に役立つ事がわかった。また、CTD は様々な目的で利用される機器であるが、今航海では水深 750m まで取り付けられているトライトンブイのセンサーとの比較を目的として利用され、水深 1000m まで CTD を実施した。XCTD は、航路上で適宜投入し、海洋構造の観測をおこなった。